

令和6(2024)年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

教務部 2024年度重点目標		
項目1	目標	評価のあり方および教務規定に関し、新学習指導要領による教育課程や大学入試を踏まえながら検討を進める。
	達成方法	①本校の新しい教育課程への移行を踏まえ、評価のあり方や進級規定等に関して、学年・教科と連携しながら検討を進めていく。評価における定期考査のあり方を検討する中で、定期考査の運営等に関しても改善できるところを見直していく。 ②全体の改訂を踏まえて、教務規程の更新を早急にを進めていく。
項目2	目標	校務におけるICTの利活用を推進するとともに、システムのマニュアル作成を行う。
	達成方法	①教務システム・自動採点システムに関して調整を続けていくとともに、処理が円滑に行われるようにマニュアル等での支援を進めていく。 ②生徒・保護者の提出書類や、教育実習等に関して、オンラインで申請・提出可能なものがあるか検討を進めていく。
項目3	目標	教務部担当の行事運営や通常業務に関して、これまでの状況を整理して改善していく。
	達成方法	①昨年度は新入生ガイダンスの運営に関して整理を実施した。今年度は、過去の状況を整理して式典等の教務部が運営する行事について円滑な運営ができるように整理を進めていく。また、宿泊行事も含めた学校行事等についても今後に向けた提案をしていく。 ②授業運営・補講対応・備品対応等に関して、現状を確認し、可能な部分での改善を進めていく。

令和6(2024)年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

進路部 2024年度重点目標		
項目1	目標	生徒が自ら学ぶ授業及び探究的な活動を意識した授業の実践
	達成方法	妻中サクセスの身体化をすべての教育活動で図る。
		タブレットや電子黒板などのICT機器の有効利用を図り、学び合いの機会を設ける。反転学習を実践し研究する。
		授業の6要素「ねらい、メモ、反応、発表、質問、振り返り」の学習姿勢を身体化し、思考を伴う能動的な活動ができる授業の実践する。
項目2	目標	生徒の進路意識改革
	達成方法	建学の精神や校訓を身体化し、学ぶ意味をすべての教育活動で考えさせる。
		生徒及び保護者を対象とした進路ガイダンスを計画的に実施する。
		各種検定試験の積極受検を奨励する。
項目3	目標	中学の基礎基本事項の定着
	達成方法	朝のSHRの時間を有効利用し、基礎基本の定着を図る
		基礎基本事項を精選し、その定着に教科担当者だけでなく学年団全体で取り組む。
		チューター等を活用して、成績不振者の支援を徹底する。
項目4	目標	大学受験への支援態勢
	達成方法	平常日の放課後及び長期休業中に実施する受験対策講座を充実させる。
		大学入試に対応した講習を充実させる。
項目5	目標	教師の受験指導力アップ
	達成方法	各種研究会や研修に参加して、最新情報を収集する。
		大学入試問題の解き合いと、検討会を実施する。

令和6(2024)年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

生徒部 2024年度重点目標		
項目1	目標	生徒・教員・保護者のポジティブなエネルギーを高めて学校全体を活気づけ、「妻中平和」を目指す。
	達成方法	集会や職員会議、保護者会において、意識してポジティブな思考になるよううながす声かけを続ける。学校からネガティブなことを減らして、誰もが過ごしやすい環境をつくることを、大妻中野に関わるすべての人が意識するよううながす。 コロナ禍の3年間では生徒たちの主体性を制限するような場面が多かったため、さまざまな生徒の活動を徐々に従前に戻していく。委員会を活性化し、生徒自らが発案して行動できるような環境を整える。教員が主導するのではなく、生徒たちを動かすように心がける。
項目2	目標	校訓「恥を知れ」と「日常の五心」をベースに日常から継続的に指導し、「誰からも信頼される人」を育成する。
	達成方法	校内での挨拶指導や登下校指導、学級・学年指導や学校行事など、学校生活のあらゆる場面を通じてルールやマナー、モラルの重要性を理解させ、社会的に信頼される人になるように、また誰に言われなくてもそれができるように継続して指導する。 上記指導をおこなう教職員自身が生徒の模範となれるように、学校生活のあらゆる場面でルール・時間・約束を守り、生徒に対するポジティブな声かけをすることにより、生徒の主体的な変容をうながせる存在になれるよう教職員自身も自己研鑽に努める。
項目3	目標	建学の精神「学芸を修めて人類のために」を柱として、豊かな人間性を養い、心豊かな「誰からも応援される人」を育成する。
	達成方法	学校生活のあらゆる場面で、他者に対する「思いやり」と「寛容」の心を持てるように声かけをしていく。グローバル社会において、多様性を受容すること、他者に対する思いやりと許容を持てることが必須であることを学校行事などにおいて体感させる。 多様な人間関係の中で多くの学びが得られる場として、「部活動に関わる活動方針」を踏まえた上で、各部活動をバランス良く実施する。部活動においてもポジティブな声かけと保護者との連携で、心理的・肉体的安全を最優先に活動することを心がける。
項目4	目標	生徒たちの健全な成長のために、学校生活における安心・安全を確保する。
	達成方法	インターネットやSNS、いじめに関わる知識や考え方を、HRや生徒集会で周知する。講演会などで専門家の意見も聞かせながら、そのリスクを自分ごととして理解させる。アンケート調査などで校内のいじめなどの早期発見に努め、適時的確な対応を心がける。 生徒たちの健全な成長をサポートするために、学校と家庭との連携を密におこない、信頼関係を構築・継続する。さまざまなストレスや不安を抱えた生徒たちをケアするために、保健室やカウンセリングルームの環境を充実させる。

令和6(2024)年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

入試広報部 2024年度重点目標		
項目1	目標	受験者増を目指し、定員確保にむけ学校全体で広報活動に取り組むとともに、より多くの受験生とその保護者に本校の魅力を伝える。
	達成方法	塾訪問・学校説明会等を教職員全体で行う。
		学校見学、オープンディなどにおいて、アドミッションスタッフが活躍する機会を活用し、大妻中野生の良さを受験生が直接感じ取る機会を設ける
		School Missionのもと、本校が育てたい生徒像を説明会や合同相談会等でより多くの受験生家庭に広報する。
項目2	目標	情報発信を効果的に行い、より多くの受験生とその保護者に学校を知ってもらう。
	達成方法	ホームページの情報updateを定期的かつ細やかに行う。
		説明会に関して、参加対象に応じてオンサイト・オンラインを目的に合わせて使い分ける。
		SNSを利用した発信を積極的に行い、学校の様子を伝える。
項目3	目標	海外帰国生およびGLC生の受験者増、入学者増を目指す。
	達成方法	シンガポール会場入試・オンライン入試を継続実施し、より海外在留中の受験生に本校を受験する機会を設ける。
		GLCにおいて、より幅広い帰国生層の受け入れ態勢や、GLCの教育実績を示すことで、入学者数増につなげる。
		国外の広報活動において、海外塾のネットワークの有効利用に努める。

令和6(2024)年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

グローバル・センター 2024年度重点目標  
Global Center - The Goals to achieve for 2024

項目1	G o a l 目 標	<p>スクールミッションの実現を目指し、SGHネットワーク、ユネスコスクールとしての取り組みを、Beyond School 活動、高大連携と関連させて、さらに進める。</p>
		<p>To further enhance our educational activities (classes in curriculum and extracurricular projects) for global context to cultivate students' global citizenship and acquire intercultural competence and mindset for coexistence in global diversity.</p>
	S t r a t e g y 達 成 方 法	<p>ユネスコ・スクール+SGHネットワーク校として、国内外の様々な機関、学校、大学と協働し、様々なプログラム、コンテストに生徒と一緒に取り組む。具体的には、Model UN, HLAB, Debate, TEDx, SGH Forum, FPT などのプログラムの情報提供や参加、企画、実施を進め、その進行状況を校務運営会議を始め、TEAMSなどで、報告、共有する。参加生徒のフィードバックも共有して、成果物とする。</p>
		<p>外国語科、地歴公民社会科、理科など、教科との連携を進め、プログラムへ参加する生徒をファシリテイトする。特に、GLCの外国語教育、GIS、フロンティアプロジェクトを更に充実させ、生徒のフィードバック、学んだことの言語化をはかり、成果を目に見える形にして、より一層の共有を進める。</p>
		<p>As a UNESCO School + SGH Network School, work with students on various programs and contests in collaboration with various domestic and international organizations, schools, and universities, including Model UN, HLAB, HEnDA, WISH, TEDx, SGH Forum, etc. We encourage students to participate in these various programs, and share their achievements via TEAMS, etc with all.</p>
		<p>To promote collaboration with the foreign language department, the social studies department, and to encourage students to participate in programs together. In particular, we will further enhance GLC's foreign language education, GIS, and Frontier Project Team. Along with that, their achievement and feedback by students will be promoted to make their achievements visible and shared even more.</p>
項目2	G o a l 目 標	<p>生徒の進路実現をサポートする。日本の大学受験が海外の大学の仕組みにシフトしていることを踏まえる。留学やグローバル系、リベラルアーツ系、海外大への進学サポートに具体的に取り組む。</p>
		<p>In order to help students realize global careers, we will promote more support for studying abroad and applying to universities in Japan and overseas in light of the shift in Japanese university entrance examinations toward a Western approach.</p>
	S t r a t e g y 達 成 方 法	<p>卒業生を積極的に活用し、その経験を在校生に共有できるようにする。また、英語ネイティブ教員との協働による様々な国際プログラム企画、参加指導、国内大学(English Track)、海外大進学ガイダンスや相談、留学相談などをonlineと対面のハイブリッドで行う。また、IELTS、TOFEL等のサポートもグローバルチューターを活用し、さらに進める。</p>
		<p>「トビタテ！留学JAPAN」、「HLAB」、「コリブリ」などと連携し、それぞれの留学や進学プログラムへのチャレンジをさらに積極的に生徒に薦め、そのための説明会、報告会などを積極的に実施していく。</p>
		<p>Actively utilize alumni to share their experiences with current students. In addition, to collaborate with native English faculty to plan various international programs, and offer guidance and counseling for students who wish to study at domestic and foreign universities as well as study abroad counseling. Additionally, support for IELTS, TOFEL, etc. will be further promoted through the use of global tutors.</p>
		<p>By collaboration with Tobitate! Study Abroad JAPAN", "HLAB", "American Embassy", "British Council", "Australian State Governments", "French Embassy", "Colibri", etc., we will actively encourage students to take on the challenge of studying abroad and entering higher education programs, and will hold briefing sessions and debriefing sessions for these programs online.</p>
項目3	G o a l 目 標	<p>グローバル教育、帰国生教育、GLCの成果を一層、内外にアピールし、広報活動に繋がる取り組みをグローバルセンターの教職員の特性を活かして進める。編入対応により、一層の帰国生の入学者の確保に努める。</p>
		<p>Efforts will be made to further promote our GLC and 20 years of returnee education both inside and outside the school, and to utilize the characteristics of the Global Center faculty and staff to promote public relations activities.</p>
	S t r a t e g y 達 成 方 法	<p>編入試験での面接対応や帰国小学生英語講座などをより一層充実させ、北米、ヨーロッパ、アジアと世界規模で本校の取り組みとその成果を普及させる。その際、日本人教員だけではなく、様々な国籍を持つ教職員の特性をより活かせるようにする。</p>
		<p>大妻女子大学、英語教育研究所、玉川大学教育学部ユネスコクラブ、日本国際連合協会、文科省グローバル化に対応した外国語教育推進事業研究校(慶應義塾大学、早稲田大学、大東文化大学など)との連携をより一層進め、その成果を校内外に発信する。</p>
		<p>To further enhance our efforts and results on a global scale in North America, Europe, and Asia by providing interview support for transfer exams and English classes for returning elementary school students. In doing so, we will make the best use of not only Japanese teachers but also teachers and staff of various nationalities.</p>
		<p>To Further promote collaboration with Otsuma Women's University Institute for English Education, the UNESCO Club of Tamagawa University's Faculty of Education, the United Nations Association of Japan, MEXT and some faculty of Keio University, Waseda University, Daito Bunka University, we will disseminate its benefits both inside and outside the school.</p>